

山元町を深く知るツアー

実施/2016年1月30日 参加者/54人

出会った、受けとめた。町の魅力と人の思い。

540通もの応募をいただいた今回の山元町ツアー。福島、東京、大阪など県外からも多数の参加となりました。1日を通じて「やまもと語りべの会」の渡邊修次さんら地元の皆さんに、震災を体験し、震災を乗り越え、ここで生活している人だからこその山元町の案内をしていただきました。地元産のホッキ飯、地域の農業をけん引する園芸施設でスタッフの皆さんがおいしさを追求して育てたイチゴも堪能。地元の皆さんと触れ合いながらお菓子を作ったり、迫力ある和太鼓を楽しんだりするひとときもありました。被災と復興、そして山元町の将来に向けた取り組みなど、町の皆さんの思いをしっかり受けとめた1日となりました。

もっといい山元町にしていけるために やまもと語りべの会会長 渡邊修次さん

次の災害に備えて悲しい思いをする人を少なくする、震災前よりもっといい古里をつくるのが亡くなった人たちに報いる、それが残された私たちの道だという思いで語りべを続けています。そして、いい古里をつくっていくためにも、山元町の良さを私たち自身が見つけ、せいかく訪ねていただいた方たちにも伝えていきたいと思っています。今回のツアーを通して山元町の魅力の一端を感じとっていただければ幸いです。

私たちだからこそ持ち帰れるもの

フォトジャーナリスト 安田菜津紀さん

今日は参加者の皆さんと同行させていただきました。全壊した中浜小学校の前で、語りべの皆さんは「地元の人の中には、沿岸になかなか近づけない方もいる」と話していました。なので、訪れた私たちだからこそ行ける、私たちだからこそ持ち帰ってこれる何かがあるのだと思います。まだまだ乗り越えていかなければいけないものがある一方で、山元町にはイチゴやリンゴなど人を呼び込めるような宝ものがたくさんあると実感できました。その両面を、私自身も含めて地元を持ち帰っていければと思います。



東京の「丸の内東北応援フェア」で安田菜津紀さんと渡邊修次さんがトークショー 山元町の今を多くの人に

3月3、4日に開催された「丸の内東北応援フェア」(主催三菱地所、河北新報社)のステージで、首都圏での風化を防ぐことを目的として安田菜津紀さん、渡邊修次さんによるトークショーを開催。安田さんが撮影したツアー当日の写真などを見ながら、山元町の現状を来場者に伝えました。



被災の傷跡、復興の兆し 山元町の今を実感

真新しい災害公営住宅、工事中の常磐線高架線路など復興の兆しも見られましたが、まだ被災の傷跡も。全壊したままの旧中浜小学校では、参加者は積もった雪もいとわず校舎の近くに。津波は必ず来る、歩いて逃げたら間に合わない、上で待とう、との判断で児童・教職員・近隣住民約90人が屋上の三角屋根に逃れて助かった、と渡邊さんが解説。



旧山下駅前にある橋元商店では山元町特産品を販売。向かいの同店倉庫「みんなの写真館」では、中学生などによる写真修復活動で提供してもらった写真や震災直後の写真など約1500枚を展示しています。

山元産のホッキ飯とイチゴ狩りを満喫

昼食は、地元産のホッキ貝で作った地元「魚やたけだ」製ホッキ飯。新鮮な旬のホッキをそのまま生かしたやわらかく豊かな味わいが絶品でした。



先端施設園芸に取り組み「GRA」では、4000平方メートルのハウスで約3万株のイチゴを生産。時期によって最適な品種を提供しています。この日は甘さと香りが際立つとちとめ。至福のひとときを味わいました。



山元町特産リンゴでコンポートづくり

「幸街堂」にて町内洋菓子店さんの指導で甘いリンゴ煮をわいわい楽しく作りました。山元町のリンゴは昔ながらの直売所販売が多く、その確かなおいしさが評判です。



ツアー最後に、感動の体験

山元町役場敷地内の「ふるさと伝承館」では、被災地で見つけた写真を展示・返却しています。ホールで町内の和太鼓集団「風雲乱打舞」が演奏を披露。体の奥底に響く太鼓の音に、参加者は元気をもらいました。訪れた人がメッセージを書いた「幸せの黄色いハンカチ」を、地元の皆さんが手で掲げてツアー一行を見送ってくれました。



山元町を深く知るツアー 参加者の声

愛着ある山元に奥深さを感じた



福島県福島市 田迫昭彦さん

宮崎の県庁職員として、震災直後は山元町で、現在は福島で業務支援を行っています。今日のツアーでは、中浜小学校建設時のかさ上げ工事が被災時の奇跡を起こした話や、和太鼓など、初めて知ることばかり。まだまだ奥が深いと感じました。震災当時は日常が非日常になってしまったような光景ばかりだったので、いろんなところで復興が見えて良かったんです。

シェアしてもらった山元を発信したい



東京都品川区 橋采花さん(右)、橋かおりさん(左)

安田菜津紀さんからツアーの情報を聞いたときから楽しみにしていました。何より「いいな」と感じたのは山元町の人たちと触れ合えたこと。自分たちが好きな町のことを、外から来ている私たちに一生懸命シェアしようとしてくれているんだということが伝わってきたし、震災時の具体的なエピソードを聞くことで自分の中でイメージを立ち上げていくという体験もできました。

皆さんの支援情報や参加しているプロジェクト、感じていることを「今できることプロジェクト」特設HPにお寄せください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/index.html 河北 今できること 検索

facebookページもあります。

私たちが、復興のために「今できること」とともに考え、このプロジェクトを推進していきます。

IHI/アヴィエスホーム/アサヒビール 東北統括本部/岩手日日新聞社/エイチ・アイ・エス/SK planet Japan/NTTデータ東北/キヤノンマーケティングジャパン/キリンビールマーケティング 宮城支社/ケーズデンキ/劇団四季/神戸製鋼所/サッポロビール 東北本部/サンセイランディック/サントリー酒類 東北支社/JA全農みやぎ/JTB東北/尚綱学院大学/住友不動産 東北支店/青南商事/生命保険協会 宮城県協会/セキスイハイム東北/石油連盟/仙台育英学園/仙台進学プラザ/仙台三越/第一生命保険 仙台総合支社/大東住宅/タゼン/DICグラフィックス/伝承千年の宿 佐勤/東北学院大学/東北三菱自動車販売/日本製紙/日本製紙クレシア/日本生命 仙台支社/野村不動産 仙台支店/はとバス/日立システムズ/平松剛法律事務所/ビルワーク/藤崎/富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ/松田会/三井不動産 東北支店/三菱地所グループ/三菱電機/宮城県自動車整備振興会/宮城県建設業協会/宮城県物産振興協会/みやぎ生活協同組合/明治安田生命 仙台支社/森永乳業/リコージャパン 東北事業本部/河北新報社 (順不同)

◎後援/宮城県、仙台市、多賀城市、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、多賀城市教育委員会

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局/河北新報社営業部 tel 022-211-1318